
教育総合センター だより

NO. 119

平成 23.3.1

元気になる

教育長 徳田 耕造



国においては、長引く経済の低迷や少子高齢化が進むなど先行きが不透明な状態が続いています。本市においても厳しい財政状況のもと、多くの困難を抱えています。教育に関しても校舎の耐震化を最優先に早急に進める必要があり、どうしてもより優れた教育環境に改善していくための予算を十分に確保できない状況であり、すなわち、「元気が出ない」話がもう何年も続いています。

確かに、教育環境を充実させることはもちろん必要ですし、綺麗で設備が整った教育施設はそれだけで大いに魅力があり、「元気も出る」と思います。だが、「元気になる」のはハード面がすべてでしょうか。

「学校における最大の教育環境は人だ」と聞いたことがあります。素晴らしい先生との出会いは、子どもたちのその後の人生をも左右します。出会いの時には、必ず「元気になる」出来事があります。例えば、勉強やスポーツ、人への言動など自分のやったことが認められた時、うれしくなり、やる気が出て、元気になります。

学校には子どもたちの勉強等を直接みていないが、校長先生や校務員さんなど、多くの方々が子どもたちに関わっています。その人々からまさか知っているとは思わないようなことを褒めてもらえたら、喜びは二倍、三倍になります。近所の人や友

だちからも認められたら、さらにやる気が出てきます。

私もそうですが、子どもの頃を思い出してみると、みんなそのように褒めてもらって自らの“得意技”を自覚し、自信をもってきたのではないのでしょうか。私は、子どもたちには中学校を卒業するくらいまでには、自他ともに認める“得意技”を一つは身につけて欲しいと考えていますし、そうした“得意技”を周囲の人たちが認め、褒めてやってほしいと願っています。

もう一つ、本市の教育委員でもありません仲島正教先生が提唱されている「子どもたちの今日あったいいことを伝える」ため、学校帰りの“5分間家庭訪問”を是非、お勧めします。家でも学校でも注意されることが多い子どもほど、褒めてもらい、認めてもらうことが少ないのです。ちょっとした「いいこと」をワザワザ家庭訪問で知らせてくれた保護者は、またその子どもは元気になり、やる気や信頼感も出てきます。

尼崎の子どもたちが元気になれば、学校が元気になりますし、さらに地域の人々や街も元気になります。また、それぞれの子どもたちが多くの人々に認められ、褒めてもらい、自らの得意技を自覚することができれば、これからの社会も立派に生き抜いていくことが出来ると信じています。

人は人によって、「元気になる」のです。

兵庫県内教育研究所連盟教育相談研究協議会に参加して

はじめに

本協議会は、県立教育研究所をはじめ各市町教育センターや教育研究所の教育相談担当で構成され、年2回、市町持ち回りで開催されている。会では、発達障害や不登校などについて専門家から講話をいただき担当者の力量向上を図るとともに、県や各市町の情報交換を行っている。

なお、尼崎市は平成25年度に担当する。

第1回研究協議会（神戸市）

平成22年7月12日（月）

講師 関西国際大学教授 藤田継道氏

演題 「発達障害と不登校」

不登校の予防と初期症状への気づきと対応、および不登校になった場合の対応について、講師の体験に基づき、保育園・幼稚園時代から小学校時代、中学校時代と年代別に具体例を示された。その中のいくつかを挙げる。

行動観察の重要性

例えば「騒ぐ」と言う問題行動をとる児童生徒について、どういう時にするのか、1時間目か2時間目か、教科は何か、始まって何分もつのかという分析力を教師が持つ事で次の手を考える事が出来る。

教師は診断しない

「離席するから、立ち歩くからADHDなんですよ。」「どうしてADHDなんですか?」「立ち歩いて離席するからですよ。」というように、脳の機能のことを言っても堂々巡りが続く。親のよき理解者となって、例えば「離席をしないようにするためにはどうすればいいでしょうね。」と、いろいろな手立てを一緒に考えることが大切である。

講演の最後に「家が心の居場所、親が心の支えになる」ことを強調された。中でも、「その子が生きていること自体、家族の一員であること自体、家にいること自体を、家族全員で感謝し喜び合うという土壌を作り上げること」という言葉が強く印象に残った。

第2回研究協議会（神戸市）

平成23年2月1日（火）

講師 兵庫教育大学准教授 有園博子氏

演題 「発達障害と不登校」

精神科医であり、臨床心理士であるご本人の経験と様々な統計を基にした内容であった。当日の講演には県内のカウンセラー研究会の方々も参加された。

発達障害の子ども達の不適応の時期

一般に、集団への不適応という形で小1と中1の時期に不登校になることが多い。発達障害の子ども達も今まで慣れ親しんだ集団から、新しい集団へ移る時に不適応感が強く、特に小学校入学段階でのケアが大切である。ただ、もう1つ大きな山が小3・小4の時期にも見られる。

認知発達のレベルで対人のやり取りや状況理解ができるようになると、友だち同士のことや人の目が気になったり友だちと上手くいけなくなったりする。小3・小4は対人関係が理由で不適応になる。この時期のケアも重要である。

（名古屋市立大学病院 2005 小児科心理発達外来受診者の資料による）

教育相談と診断の線引きはどこか

結論的には出来ない。一人で抱えるのではなく支援者同士が絶えず情報を交換し、ケースカンファレンスのような会議が重要である。また、SSWなどとの連携など様々な機関と連携する事が重要である。

部会を終えて

学校現場から着任して10ヵ月。どのように相談に対応するのかという問題意識は常にあった。

「障害だからこんな事が起こるのだというのではなく、相談対象者の困り感に対して細かい目標を設定して、いつもそれを克服する事を目標にすればぶれない」という、二人の講師の言葉は大いに参考になった。相談対象者に寄り添いながら、これからも一人一人に丁寧に対応していくつもりである。（教育相談担当指導主事 吉田 幸嗣）

“ 可愛い ” わたしで大丈夫？

1 はじめに

「背が大きい、声大きい、可愛い」これが、現場の生徒たちの私への印象でした。保護者からは、あいさつ代わりに「先生、子どもが先生可愛いて言うてるで」と言われ続けていた私ですが、適応指導担当を命じられたことは、「もっと人間、まるくなれ」という天の声だと理解して「不登校にどう向き合うのか」の勉強を始めました。

2 国の不登校対策の動き

私が適応指導担当を拝命した平成 18 年当時、全国的には不登校生徒増加のピークが過ぎて、わずかながら減少傾向になってきていました。

文部科学省は、「不登校」は特別な誰かに起こるのではなく誰にでも起きうることであり、スクールカウンセラーの配置や不登校に関する調査研究を充実させていきました。国立教育政策研究所が不登校児童生徒の追跡調査を行い、中学校における「不登校の未然防止」の取組を示した時期でもありました。

3 尼崎市の不登校対策事業

本市の不登校対策事業は【表 1】のように次々に打ち出され、他市の不登校対策事業の先駆的存在でありました。

【表 1】

年度	事業
S57	訪問指導員を 2 名配置(H9 から 9 名)
H3	はつらつ学級開級(教育総合センター) H10 から現在の場所
H6	ハートフルフレンド派遣開始
H18	生活指導員配置・社会体験活動開始

しかし、これらの多面的な活動にもかかわらず、不登校児童生徒の出現率をみると、小学校においては約 0.3%で全国・県の数値と大差がないものの、中学校においては、全国・県の約 3% に対して約 4%前後と高い水準にあり、お世辞

不登校児童生徒への対応と今後の課題

にも事態が改善されているとは言い難い状況にあります。

4 今後の取組と地域の方々へ

このような状況の中で、わかったことが 1 つあります。それは、「いったん不登校になってしまうと、容易なことでは学校復帰につながらない。早期対応は当たり前として、何よりも未然防止が大切である。」ということです。

そこで、平成 19 年からは、国立教育政策研究所が示した、「中 1 不登校の未然防止」に示されている小中学校の情報連携の強化を基に、各中学校において 1 年生に対するきめ細かな指導に取り組んでおります。また、平成 22 年からは不登校児童生徒にかかわっている嘱託員の一部を学校配置とし未然防止体制の強化に取り組んでおります。今後は、小中連携を促進し、未然防止体制の一層の強化に取り組んでいきます。

最後に、いろんな機会に不登校の子どもをもつ母親たちと話をすることで、身内や友達にも誰にも自分が直面している苦しさを話すことができないで一人で苦しんでいる親の姿をたくさん見てきました。中には「お母さん、大変やね」と言っただけで泣き出してしまうこともありました。不登校の子どもをもつ親は、これくらい心細さを感じて毎日をすごしておられるのです。

地域の皆様、「私に何ができる？」と大それた事を考える必要はありません。ぜひ、「よう頑張ってるやんか」と一声かけてみて欲しいと思います。できれば、お茶など飲みながら話を聞いてみてくださればと思います。

お母さんが元気になれば、子どもも元気を取り戻すきっかけになります。

何よりも、しんどい思いをしている子どものために！

(生徒指導・適応指導担当係長 林 幸二)

教育情報コーナーへ どうぞ

今年度、先生方によく読まれた本をご紹介します。

『教科書教材で出来るPISA型読解力の授業プラン集』 有元秀文編著

小・中学校の教科書で掲載の有名教材で、PISA型読解力の授業方法を提案。

『小学校版新任教師のしごと「科」授業の基礎基本』 教育技術MOOK

各教科や外国語活動など、授業の基礎基本を2ページ見開きでわかりやすく解説。

『発達がわかれば子どもが見える～0歳から就学までの目からウロコの保育実践』

乳幼児期全体の発達にそくした援助と保育内容がわかる。 乳幼児保育研究会編著

『教師力を磨く～若手教師が伸びる「10」のすすめ』 仲島正教著

「教育は足でかせぐもの」「教育とは今日行くこと」。仲島先生の熱気が伝わる。

『発達障害の子どもたち』 杉山登志郎著

そだちの遅れが見られる子に、どのような治療や養護を進めるか、やさしく教える。

『思考力・表現力を高めあう授業づくり・学級づくり』 馬野範雄著

子どもたちが自ら考えを出し合い、高め合う授業の実践例。学級づくりを学ぶ。

視聴覚ライブラリーの教材を使いませんか

- レンタルビデオ店にはない16mmフィルム教材やビデオ教材があります -

視聴覚ライブラリー所蔵の教材は、財政状況の影響で、最新のものはあまりありません。しかし、人権問題に新しい・古いはないと思います。映像に映し出される「背景の違い」も授業の「教材」になると考えることもできます。『こんなことは、古い時代にもあったんや』・『なんにも成長してへんやんか』など、授業者の「味付け」で、「古い視聴覚教材」の方が「新しい」テーマを作り出せる可能性すらあるとも言えます。

そのような中で、男女共同参画に関するテーマのビデオ教材は、比較的新しく充実しています。ぜひ、ご利用下さい。また、学校の職員研修で利用できる「接客・対応」の研修ビデオも用意しています。保護者対応の職場研修を企画される時にご一考下さい。

[今年度の貸出実績ベスト8]

	中項目	タイトル名
1	いじめ	「とべないホテル」シリーズ
2	障害者問題	「障害を持った人とのふれあい」
3	平和・戦争	「炎の証言 これが空襲だった」(炎の証言シリーズ)
4	高齢者問題	「人生80年時代を生きる」
5	防災・防犯	「あつ地震だ！おちついて、あわてない！」
6	童話・むかし話	「まんが日本昔ばなし」シリーズ
7	虐待・子ども	「地域の虐待防止(幼い命の悲鳴を救うために)」
8	部落差別問題	「いのち輝く灯」など